



# さつやまづ

平成29年3月1日現在  
世帯数：5,171 戸  
男 5,741 人  
女 6,142 人  
計 11,883 人

## 里山辺地区 まちづくりトーク

まちづくりトークは今年で3回目を迎え、1月22日に公民館の大会議室において54名の参加者で行われた。内容については重要と思われるものだけを紹介する。

まず、1つ目は、皆様からの課題を町会連合会等が進めてきた事案。

### ①道路などインフラ整備

「出川・浅間線の延伸」は地区の西部を通る道路整備事業で、半世紀以上手つかずだったが今年度には関連町会の説明会及び必要な調査が松本市によって開始され大きく前進した。他の道路や水路の改修整備は完了しているが、改善策を模索している箇所もある。

### ②地域づくり基盤整備事業

「里山辺公民館・出張所の移転新築事業」の要望書を松本市に提出し前向きに検討する旨の回答を頂いている。

③地域の歴史・文化財発展充実事業。林大城が国の史跡に認定され、地域づくりの大きな励みとなる。

2つ目は里山辺地区の福祉の



左：重田篤希さん 中央：渡邊泰和さん  
右：丸山祐弘さん

3つ目は、参加者からの意見や新たな提案である。

①朝食をとらずに学校に行く児童のために有志が金を出し合い「子供食堂」をつくる。

②町会の隣組再構築で高齢者の一人暮らし世帯の見守りをする。

以上のように、この事業は多くの人の手を借りて着実に成果を上げながら前進していることがわかる。

今回のまちづくりトークを更に活発化するために、もう一度「里山辺をどういう町にしたいのか、地域づくりのためにどんなことをしたいのか」徹底的に議論する必要がある。

そして出された課題は具体的に検討し「住民に伝え住民と共に考えること」が重要である。また、提案や意見だけではなく「具体的な解決策」等も提起することも重要であり、この事がまちづくりを更に加速させると信じている。

里山辺地区まちづくり協議会  
会長 市原 富美敏

### わが町紹介

小松町 女性・子供・  
小町 高齢者が鍵

小松町は、昭和45年に北小松から分離独立した2百世帯程の中規模な町会です。

専業農家はなく、大半がサラリーマンで現在はリタイアされた方も多く、ご多分に漏れず高齢化が課題になっています。

新しい町会のため、文化遺産も、古くからの言い伝えもなく特徴の無いのが特徴です。町会として力を入れていいる事は行事に参加して良かった。

た、楽しかったと感じてもらえる雰囲気作りです。特に女性には、スポーツ大会後の慰労会参加が負担にならないように軽食・飲み物にも工夫して、ご主人・子供連れで参加して頂き、理解と懇親を深めて貰います。今後の行事にも家族全員で積極的に参加して頂けたらと思っています。

数年前に、一軒全焼の火災事故を経験しています。そのため、防災訓練で時間を割いているのが初期消火訓練、特に消火栓取扱いと放水訓練です。日中の在宅は高齢者ですので彼らを中心に、有事の時に慌てないように実技訓練を中心に真剣

### 未来を拓く自治と 協働を目指す研究集会松本大会 公民館功労者表彰



公民館功労者表彰を受賞された皆さん

1月28・29日の2日間にわたり、松本市公民館70周年記念事業「未来を拓く自治と協働のまちづくりを目指す研究集会松本大会」が開催され、

に取り組んでいます。役立つ時が無いにこしたことはありませんが。

小松町公民館長 久祢田修一郎



町内防災訓練の様子

市内外より600名程の参加となりました。

1日目の全体会では松本市のまちづくりの特色や住民の自治と協働による生きがいの仕組みづくりについて確認し2日目は11のテーマ毎に分科会を行いました。

この集会に先立ち、松本市教育委員会より、長年公民館活動を牽引頂いた方に公民館功労者表彰を行いました。里山辺地区からは本部文化委員を32年間務められた高橋裕さん(兎川寺)と前本部体育委員長で20年間本部体育委員を務められた中澤寛さん(林)が表彰されました。



# 立志式(3/4成人式) 開催される



立志を迎える参加者と  
演奏いただいた嘉納夫妻

の将来についても考える式となった。以下は参加者代表の山口智美さんの決意のことば(二部抜粋)です。

私は将来、教育関係の仕事に就きたいと思っています。教師である一番身近な両親や日々お世話になっている先生方、生徒思いな姿、目標に向かって努力する私たちのために動いてくださる姿に私は憧れるようになりました。

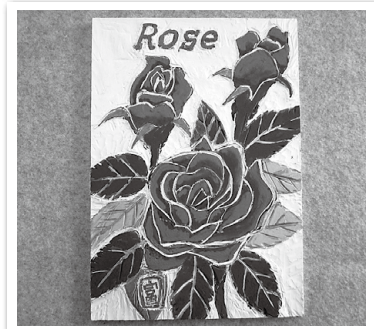
日本の教育のために尽くした福沢諭吉が書いた「学問のすすめ」の中に、「信用こそ人生の第一義。かりそめにも人に当てにせらるる人にあらずれば、なんのようにも立たぬものなり」という言葉があります。

す。香る様な花とは程遠いものでしたが、今後とも研鑽を重ねてゆきたいと思っています。

参加者 市橋 富餘

山辺中のドリーム大学に参加させて頂き刻字の魅力にとりつかれ、機会あることにNHK松本のロビー展や、安曇野の碌山研成館に足を運び、眼力を養ってきたつもりです。

## 刻字体験講座に参加して 「スケッチの果てに」



市橋さんの作品

## スポット

7年に一度の  
須々岐水神社御柱祭に  
向けて  
◇須々岐水神社  
注連縄新調

薄町町会住民約60名が3日間掛けて編んだ注連縄を鳥居に取り付けた。

7年毎、卯年・酉年の御柱行事の年に新しくするのが恒例で、全長約30メートル、太さ最大90センチの大きな注連縄をこれまでと同じ形になるように、左右のバランスなどを慎重に確かめつつ鳥居に取り付けた。

館報編集委員 小幡 政義



新調された注連縄



ゆき頭の木遣りで山から里へ

◇早春のいで湯の谷に  
「木遣り歌」響く  
2月25日、須々岐水神社二の御柱を曳き出す根倒し「山出し祭」が湯の原地区で行われた。

朝の冷え込みは有ったけれど、快晴に恵まれ、青年・中老・役員約百名余りが、ゆき頭の先導で木遣り歌を響かせながら山から里へ曳き出した。

5月5日の里曳き・建立祭には多くの氏子のご参加をお願いします。

上寺井町会御柱総代 金井 守

## 「文献で見る 府中小笠原氏の動向」の 講演を聴いて

城跡の考察をするには、その城の構造等もさることながら、その城を造った人物像の背景を学ぶことが欠かせないと思っていた。

今回の講演では、たくさんの古文書を紐解き、小笠原氏の先祖であった源氏の流れをくむ武士の時代から武田信玄との戦いに敗れた小笠原長時迄の人物像について系図をもとに説明をされた。

特にテーマの「井川城から

参加者 柳澤 一則